

# 新潟県立長岡聾学校

## きこえ通信

令和6年度 第8号

<http://www.nagaokarou.nein.ed.jp/support.html>

当校 HP にも掲載中!

新潟県立長岡聾学校 通級指導教室

〒940-0093 長岡市水道町 2-1-13

Tel 0258-38-0210 (通級指導教室)

\*18:00頃までをお願いいたします。メールもご利用ください。

FAX 0258-39-5665

e-mail [school@nagaokarou.nein.ed.jp](mailto:school@nagaokarou.nein.ed.jp)

発行: 令和6年12月 担当 柳原

\*来校の場合は0258-33-3173でナビ検索をお願いします。

## 長岡聾学校「耳やきこえに関する理解研修会」

### 上越教育大学 小林 優子 先生のご講演より



先日、当校主催で「耳やきこえに関する理解研修会」を実施いたしました。ご参加くださった方々、ありがとうございます。聴覚障害教育がご専門の、上越教育大学 小林 優子 先生にお願いし、オンラインで行いました。希望した方には後日 YouTube 配信を行います。その方々へは先に内容をお知らせする形になりますが、ご講演内容の一部をご紹介します。掲載について、小林優子先生にご了解をいただきました。

### 小林 優子 先生ご講演 概要

◎聴覚障害の基本的な知識 ⇒ 音を聞くしくみ(外耳と中耳の障害→伝音性難聴、内耳の障害→感音性難聴)

◎APD/LiDについて

- ・中枢性聴覚障害(聴神経、脳の聴覚野に関わる)外耳、中耳、内耳が原因でない。
- ・基本的な支援は、軽中等度難聴と同じ。
- ・聴覚情報は瞬時に消えるため、聴覚器官の機能、注意、ワーキングメモリのいずれかに問題があれば、きこえにくさが生じる。
- ・診断、評価の流れ、検査について。支援の課題について。



ご講演の中では「雑音下でどのくらい聞き取りにくいのか」という音源も聞かせていただきました!

◎Listening effort(リスニング エフォート)について

- ・聞き取りが難しい状況において、努力して聞こうとし、聴覚経路以外の様々な一能力を総動員する状態。
- ・高い effort は疲労を生じさせ、学校での QOL を低下させる。

◎大学共通テストのリスニングにおける補聴援助システム(ロジャー等)の利用について

- ・補聴援助システムの使用が昨年度より認められるようになった。Bluetooth の使用は認められない。
- ・補聴援助システムの使用に当たっては、受験する(可能性がある)大学と事前の相談、接続確認が必要。

参加された方からは「改めて、難聴のある子について、理解が深まった」、「APD/LiD について知りたかったので、詳しく教えていただいて良かった」などの貴重なご意見をいただきました。

Listening effort(リスニング エフォート)は最近耳にするようになった概念ですが、実際には通級生徒などから「聞こうとすると疲れる」「席替えをしたらエアコンが当たりにくく、疲れやすい」などの話を聞いていて、その状態に名前があることは意義深いと感じました。難聴のある当校職員からも「やっとこのことを言ってくれる先生がおられ、本当に良かった。でも自分としては、聞く時の疲れや緊張は一生続くと思う」と聞き、大変さに思い至りました。

なお、個別のケースにつきましては当校へご相談をお願いいたします。



# 今さらですが「長岡聾学校」について

時々ですが「長岡聾学校はどこにあるんですか?」「何をお願いできるんですか?」などとお話をお聞きすることがあり、「長岡聾学校」については、意外と知られていません。こちらの PR 不足を反省するばかりです。ここでは、改めて、きこえにかかわる「地域のセンター的機能」もある、長岡聾学校についてお知らせをさせていただきます。

## ◇主に県内上中越地域の難聴のある幼児児童生徒の学びの場



現在は、幼稚部(高田分校、小出分教室を含む)11名、小学部(今年度は高田分教室はなし)17名、中学部8名、高等部産業技術科(以下高産科)8名が在籍しています。今年度、在籍はありませんが、高等部専攻科もあり、高産科を卒業した生徒(他の聾学校や高校も含む)が入学します。

幼稚部の子どもたちは週の内、主に金曜日に地域の保育園等で交流活動を行っています。小・中学部、高産科ですが、普通学級は一般の小・中・高等学校と同じ教育課程と自立活動を勉強しています(準ずる教育)。重複学級は個人に合わせた学習を行っています。中・高等部とも定期考査があり、中学部は5~7教科程度、高産科は、7~10科目程度の試験があります。高産科は高校と同じく、成績や出席状態で進級や卒業が認められます。

難聴がある幼児児童生徒は最初から聾学校で過ごす場合もありますが、小・中学校からの転校や受検、小・中学校への転校や高校受検をして進学する場合があります。



## ◇難聴が疑われる乳幼児児童生徒(0歳から18歳まで)へのセンター的機能を有する場

「子どもの聞こえ相談室」があり、主に県内上中越地域の難聴が疑われる幼児児童生徒の相談を受けています。新規相談数は年間で約 40件、乳幼児が多いですが小・中学生の相談や学校からの問い合わせもあります。「今まで何ともなかった」けれども、少しずつ聴力低下する場合もあるようです。相談内容は、主に次のとおりです。

- きこえについて、困っていることを聞き、学校生活などでのアドバイスを行う。
- 聴力測定を行う。
- Dr.の指示で補聴器業者さんと連携して補聴器のフィッティング、補聴援助システムの紹介を行う。
- 在籍校や医療機関、関連団体との連携を行う。居住地の通級指導教室を紹介する。
- 転学も含め、進路(就学)相談に応じる。
- きこえの状態に合う資料などを紹介する。



☆机椅子用テニスボールも多くあります。必要な場合はご連絡ください。

今年度は、APD/LiD、片耳難聴の相談や問い合わせが多いと感じています。難聴は外から見て困り感がわかりにくいのですが、実際には学習や生活の困難さがあります。対応することで過ごしやすくなる場合があります。

## ◇長岡市・見附市・小千谷市・出雲崎町の難聴がある中学生の通級指導教室

### きこえについて、相談がありましたらご連絡をお願いいたします。

**通級生徒在籍校の先生方へ** 今年度の在籍校訪問を全て終了いたしました。ご多用の中、お時間をいただき、本当にありがとうございました。また、日頃のご指導、ご配慮をありがとうございます。今後とも連携をよろしくお願いいたします。気になることがありましたら、ご連絡をお願いいたします。

**この通信をご覧になっている皆様へ** いつもお読みいただきありがとうございます。きこえで気になることがありましたら、当校へご連絡をお願いいたします。今年度は「小6児童の相談(中学校進学前にどうすれば良いか)」、「APD/LiD(疑いを含む)の相談」、「片耳難聴の相談」が多いです。難聴は発見が難しく、聴力が低下していても本人や周囲も気づきにくいことがあります。学習やコミュニケーションの困難を生じ、思った以上に聴き取れていないこともあります。高校入試で配慮を受けたい場合は、専門の耳鼻科医による診断書(年内にはもらえるように)や学校での日常の授業や定期テストの支援が必要となります。困った状態をそのままにせず、安心して過ごせるように、当校へご相談ください。

